

伊 広報 いせん 302号

全世帯配布 編集・発行 伊仙町役場 企画課

〒891-8293 鹿児島県大島郡伊仙町伊仙1842 TEL 0997(86)3111 FAX 0997(86)2301 2013年(平成25年)1月号

URL <http://www.town.isen.kagoshima.jp/>

新年あけまして
おめでとうござい
ます

♪喜念浜から
朝日がのぼ～る♪
(伊仙小唄より)

目次

- 新年のごあいさつ・・・ 2－ 3
- 町制施行50周年・・・ 4－ 6
- お知らせ他・・・ 7－13
- 特集～伊仙町の伝統文化～「石敢當」
・・・ 14－15
- わがまちのアイドル・戸籍の窓 16

主な行事予定

- 消防出初式 (1月 4日)
- 成人式 (1月 5日)
- クリーン作戦 (1月20日)
- いせん親子チャレンジ教室
(1月25日)

新年のごあいさつ



伊仙町長
大久保 明

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり町民の皆様と共に輝かしい新春を健やかに迎えられるました事をお慶び申し上げます。昨年は、相次ぐ台風襲来で家屋・牛舎等の倒壊や、さとうきび・園芸作物にも甚大な被害を受けました。被災された皆様方に改めてお見舞いを申し上げます。又、衆議院解散で師走選挙が行われるなど、公私にわたり多忙を極めた年でありました。

さて、伊仙町では昨年、町制施行50周年という歴史に残る記念事業を、多くの郷友会の皆様方や全町民参加のもと、盛大に挙行する事ができました。衷心より厚くお礼申し上げます。

この50年間に多くの先輩たちが艱難辛苦にも負けず、町の発展に心血を注いできたことに深く感謝と敬意を申し上げます。この半世紀を振り返ると、戦後の復興期から取り残された奄美群島は、奄美群島復興・振興・振興開発事業により、道路、港湾、学校などの社会インフラ整備がなされてきました。しかしまだまだ十分ではなく、特に伊仙町においては、激しい政争の町という印象が強く、町の順調な発展を阻害した感がありました。しかし今はその反省を踏まえ、町民が心をひとつに一致団結し、次の50年を「誰もが住んでみたい」と思う魅力ある誇り高い町にしていこうという機運が醸成されつつあります。伊仙町の「熱い」町民性は時に激しく対立することもありますが、まとまって方向性が定まると力強く前進していきます。

高度経済成長という時代背景の中、若者は都会へ流出、過疎化が進行し、50年で人口が1万6千有余から7145人(平成24年11月末現在)と半減となりましたが、これ以上の人口減少を食い止めることが最大の課題です。そのため国・県に対し、具体的政策を自ら提案し、交渉する知恵と能力を育成することが重要です。

「地域力」とは地域がその特徴ある自然・農業・文化・伝統などに自信を持ち全員が共働でそれを「宝」に磨き上げる作業です。長寿・子宝・闘牛はまさに伊仙町の地域力が生んだ宝です。政策はこの宝を生かすことです。

奄美琉球諸島の世界自然遺産登録については、平成25年1月には環境省が奄美琉球諸島を掲載した暫定リストを外務省を通じてユネスコ世界遺産センターへ提出、25年度中に奄美群島国立公園の指定を行い、平成28年度世界自然遺産登録を目指すなど国県市町村が連携し活発になってきました。平成26年度・30年度の次期奄振期間中の登録実現が現実味を帯びている中で奄振も地元の見や要望を中心とした奄美群島成長戦略ビジョンの骨子を取り入れた形での法延長に加え、一括交付金化「奄美群島成長戦略推進交付金」となることから、より一層地元自治体が個々の特色を生かした知恵と発想の発揮が期待されています。

この数年、奄美地方でも異常気象が続き、今年も台風15、16、17、21号と大型台風が直撃して、住家や農作物、公共施設等に甚大な被害を受けました。

特にサトウキビは50年間で最悪の状況となりましたが、それでも農家の方々は苦境に屈することなく力強く立ち上がっています。一昨年、米軍普天間基地移設で徳之島案が報道されたとき、島民が一致団結し島の自然・文化・農業を絶対を守るという強い意志で、15万人集会を開き、断固反対を貫きました。未来の子どもたちのため、永遠にこの島を守っていくことが我々に課せられた使命でもあります。

「自立」「挑戦」「交流」をキーワードに「共に創ろう躍進する輝く伊仙町」をスローガンに100項目のマニフェストを政策の目標に掲げ、町民総参加型の町

政運営に全力で取り組み、着実に実現しつつあります。

過去に長寿世界一を2人輩出し、子宝日本一の榮譽をあわせ持つ「健康・長寿と子宝の町、人情豊かなもてなしの町」伊仙町は、急激に少子高齢化が進む日本社会の中、地域社会のモデル地区として全国が注目する、誰もが行ってみたい町・住んでみたい町づくりを目指します。

昨年からは奄美の観光と物産を充実させるため奄美群島を一元化した社団法人奄美群島観光物産協会も設立され、今年度は各島々に支所を置くなど交流人口の拡大や農産物の販路拡大に拍車が掛かり、一層充実して参ります。

徳之島なくさみ館については、徳之島の代表的な伝統行事「闘牛」や、町指定文化財「目手久八月踊り」や「島唄」など特徴的なオンリーワンの魅力ある伝統文化の保存継承を行うとともに、全国に発信することで交流人口から定住人口の増加につなげていきます。

昨年の50周年記念式典と徳之島なくさみ館のこけら落し記念闘牛大会には、関西空港から徳之島へのチャーター便などで500人以上の出身者が参加しています。この機会に出身者をもてなし、交流を深めることで島に定住する方が多くなります。これからは島を愛する郷友会との連携・交流を推進することが農産物加工品の販路拡大・定住拡大に直結することになると思います。このような社会を目指すことを祈念するとともに、奄美群島の12市町村各自治体が地域の特性を生かし、発展することを切望し、奄美全体の振興発展に繋げて行くことが望ましい姿であります。

今後共、「長寿と子宝の町」「人情豊かなもてなしの町」として更に情報発信し、町勢発展のため、職員一同一丸となつて、全力投球で頑張っていきます。町民の皆様様の尚一層の御協力と御支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます、私の新年の挨拶といたします。

新年のごあいさつ



伊仙町教育委員会教育長 茂岡 勲

町民の皆様、新年明けましておめでとうござい
ます。輝かしい新春を健やかに迎えられたことと存じ
ます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
昨年は、町制施行50周年の記念すべき年にあたり、
伊仙町が、内外共に注目され躍動した年でもありま
した。

学校教育においては、まず人づくりです。全国ど
こでも通用する学力・体力を持ち、人間性豊かな人
づくりが大切であります。自分が生まれ育った徳之
島を誇り、この島を愛し、島の産業である農業を守
り育てようとする人材の育成であります。伊仙町で
は、知・徳・体のバランスのとれた全人教育を目指
してどの学校も「学力の向上」と「特色ある学校経営」
を課題として取り組んでいます。

具体的には、「学力向上アクションプラン」を各学
校で作成し、それに基づいた毎日の授業の充実こそ
原点と捉え、全小・中学校で指導法の改善に取り組
んでいます。管理職研修会においても、学力保障に
ついて強く呼びかけ意識させているところです。

また、幼稚園、小・中学校の連携を図るために、
東部・中部・西部に分かれて定期的に授業研究を実
施する幼・小・中連携部会や、中学校の各教科部
会の前向きな活動は、本町の学力向上に寄与するも
のと期待しています。さらに、小・中学校時代の読
書量が学力のベース(堆肥)になると捉え、2校の
町指定校を中心に、どの学校でも読書量調査や読書
週間を位置付け、読書活動の推進に取り組んでいま

す。他にも、保護者に家庭学習の大切さを理解して
いただくために、PTA会合や学校通信を利用して
「60・90運動」の呼びかけと質的改善を図ってい
ます。

学力向上と生徒指導は車の両輪と言われます。心
の教育を中心とした生徒指導が、ますます重要性を
増しています。本町では、「いじめ」はどの学校にも
あるという基本認識の下、いじめを一件でも多く発
見し、一件でも多く解決できるように努め、安全・
安心な学校づくりに誠心誠意努力します。

徳農校跡地の利用については、町当局、町議会、
教育委員会が一体となって取り組み、平成25年4月
より、徳之島高校で大島養護学校の訪問教育が開設
されます。8月には、教育委員会と歴史民俗資料館
が移転しました。今後、広い敷地や教室等を利用し
た文化発信施設として期待されます。

国際化の進む今日、英語教育の必要性・重要性は
日に日に増していますが、町独自のALTも3年目
を迎えその成果を期待しています。また、「子育て
支援」の一環としてスタートした「預かり保育」も、
さらに充実させなければなりません。

社会教育においては、県・郡・町の方針を基本目
標として諸行事に取り組んできました。今年度の学
びフェスタでも、伊仙のよさを十二分に発揮できた
と考えています。また、県PTA委嘱公開も盛会の
うちに終了し、親子チャレンジ教室や交流学習も軌
道に乗っています。大島郡生涯学習大会の次期大会
(平成26年度)に向けて一層努めてまいります。

町には、多くの文化財があり、歴史民俗資料館の
徳農校跡地への移転を契機に、その有効活用を図り
ます。特に、カムイヤキのスケールの大きさと伊仙
町民のよさを自覚させる取り組みに努めます。また、
明眼の森が、国指定の天然記念物(予定)になるこ
とも慶事です。

今後、更なる町教育行政の充実発展に向けて教育
委員会一丸となって町民の期待に応えられるよう頑
張ります。
終わりに、皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上
げて、新年の挨拶とします。

謹賀新年

町長

大久保 明

水道課長

芳田 勇人

副町長

中野 幸次

会計課長

幸多 健策

教育長

茂岡 勲

議会事務局長

椋山 正二

総務課長

窪田 良治

選挙管理委員会書記長

稲 隆仁

企画課長

牧 徳久

農業委員会事務局長

益岡 稔

税務課長

池田 俊博

教育委員会総務課長

鶴永 宏造

町民生活課長

西 吉広

社会教育課長

當 吉郎

保健福祉課長

松田 一郎

給食センター所長

平山 栄文

経済課長

樺山 誠

ほーらい館館長

仲 武美

建設課長

中熊 俊也

保健センター所長

澤 佐和子

耕地課長

上木 義一

他職員一同

環境課長

益 一男

兄 山 町 町 民 会 館 大 会 場 での 同 年 忌 大 会 ・ 兄 賀 祭



祝賀会
伊仙町制施行五十周年記念式典
祝賀会



10月27日に伊仙町制施行五十周年記念式典・祝賀会を町総合体育館において挙行了ました。

全国各地から郷友会の皆様に参加し、町内外から約800名が参加し、半世紀のあゆみを振り返りながら盛大に節目を祝いました。

大久保町長は式辞で「熱い町民性は時に激しく対立し、町の発展を阻害した過去もあった。その反省を踏まえ町民が団結し、誰もが一度は行ってみたい、住んでみたい魅力ある町づくりに伊仙の情熱と地域力を生かして前進していこう」と述べました。

また、式典では、旧伊仙村の第10〜13代村長を務めた故叶實統氏、医療・介護福祉の充実に大きく貢献した医療法人徳洲会理事長の徳田虎雄氏に名誉町民の称号を授与。元町歴史民俗資料館長の義憲和氏と関西伊仙町連合会顧問の郷野健一郎氏に町民栄誉賞を授与し、町政功労者表彰では、7部門に1団体・74名を表彰しました。

記念講演では、前国土交通省国土政策局特別地域振興官の安栖宏隆氏が「徳之島の自立に向けた産業活性化方策への提言」と題し、奄美の主要産業の3本柱である農業、観光・交流、情報の課題を分析に基づき指摘し、「この島の良さを守り、発展させるにはリスクを恐れず変革すること、新しいチャレンジで未来の明るい徳之島が実現できる」と提言がありました。

引き続き行われた祝賀会では、郷友会を含め多彩な余興芸能で親睦を深め、半世紀を振り返り更なる町勢の発展に熱い意見交換と誓いを新たにしました。

徳之島地域文化情報発信施設「けら落とし」

伊仙町では、この徳之島地域文化情報発信施設がみなさんに「身近」で「より親しみやすい」場所としてご利用いただくという目的で、愛称（ニックネーム）とイメージロゴマークを公募しました。おかげ様で、全国各地から愛称への応募が527点、イメージロゴへの応募が70点ありました。そして徳之島地域文化情報発信施設「けら落とし」式典において採用作品の公表がありました。作品は次のとおりです。

○愛称 — 「徳之島なくさみ館」 採用者：平山加菜さん（鹿児島市）

○イメージロゴ — 採用者：平山陽一さん（鹿児島市）

公募に際し、全国各地から多数のご応募、本当にありがとうございました。感謝申し上げます。



学 びをとoshita人づくり・町づくり～いせん学びフェスタ2012～



11月3日(土)に旧徳之島農業高等学校体育館で、いせん学びフェスタ2012が開催されました。青少年育成の現状や高齢者を対象としたサロンの取組などについて、事例発表が行われました。また、文化協会によるステージ発表も行われ、多くの来場者で会場は賑わっていました。

第 3 4 回伊仙町駅伝競走大会



冬の到来を告げる伊仙町駅伝競走大会が、開催されました。喜念浜公園前をスタートし、ゴールの糸木名小学校グラウンドを目指して、8区間で各校区の選手が襷を繋ぎました。沿道では、選手を応援しようと多くの方々が声援を送っていました。結果は、犬田布校区が見事優勝を果たし、2区間で区間新記録が生まれるなど、実りある大会となりました。



優勝	犬田布校区	区間賞	第1区	佐倉 佑京	第5区	永里 竜美
2位	鹿浦校区		第2区	常 加奈子	第6区	上野 侑海
3位	伊仙校区		第3区	岩佐 那由汰	第7区	吉鶴 正樹(新記録)
			第4区	作 南々帆	第8区	中 夢子(新記録)

子 どもに「生きる力」を育む



～県PTA活動研究委嘱公開(伊仙町大会)～

11月24日(土)に、徳之島交流ひろばほーらい館で、鹿児島県PTA活動研究委嘱公開伊仙町大会が開催されました。「子どもに生きる力を育む活発なPTA活動の在り方」を大会テーマとして、町内各学校のPTAによる事例発表が行われました。PTA組織は、各専門部に分かれて、学校行事に関わるだけでなく、学校と地域住民の掛け橋にもなっています。今後も地域の特色や教育力を生かして、子どもたちが健やかに成長できるよう、PTA活動の更なる発展を期待します。

伊 仙町戦没者合同追悼式



伊仙町戦没者合同追悼式が11月21日(水)義名山神社の境内にある慰霊碑の前で行われました。杉並遺族会会長・遺族関係者70名が参列し厳かに神事を執り行い、戦争で犠牲となった498柱の御霊の平安を祈るとともに、恒久平和への誓いを新たにしました。

農 業を生かした地域貢献～4Hクラブの活動～



11月12日(月)、4Hクラブ(農業青年クラブ)の福山宣太会長が、伊仙町教育長を表敬訪問しました。4Hクラブは、学校県民週間に合わせて、町内11校の小中学校にパンジーの苗を贈呈し、特に小学校では、花の植え方指導まで行いました。小学生たちは、「植え方がよく分かった。」「自分でしっかり育てたい。」など大喜びでした。福山会長は、「花植え活動をとおして農業のすばらしさの一端を感じ取ってほしい。」と、来年の活動も視野に入れている様子でした。伊仙町が行っている花いっぱい運動とも関連する取組です。今回の活動を通じて、土に親しみ、花を愛する子どもがたくさん育ってくれるといいですね。

奄 美群島国立公園指定に係る説明会



12月4日(火)午後6時より、伊仙町中央公民館ホールにおいて、「奄美群島国立公園指定に係る説明会」が開催されました。奄美・琉球諸島の世界自然遺産登録(平成28年目標)に向けた取組の一つでもある奄美群島国立公園指定について、環境省奄美自然保護官事務所の田中 準氏より説明がありました。この中で、奄美群島世界自然遺産登録の「保護担保措置」として、環境省では奄美群島及びその周辺海域について、国立公園の指定作業を進めているところで、平成25年度中に指定の予定です。新たに国立公園に指定される箇所の区域図や「指定に伴いどのような規制があるのか。」また、「私たちの暮らしに影響が出るのか。」等、具体例を示しながら説明がありました。この後、来場者からはノイヌ・ノネコによるアマミノクロウサギ被害等の質問が出ていました。

平 成 24 年 度 コミュニティ助成事業の報告

この事業は宝くじ助成金で実施されています。集落自治会活動の充実・強化を図るため、集落行事などで使用する活動備品等を整備する事業です。今年度は、小島集落自治会、上晴集落自治会、中伊仙西集落自治会、木之香集落自治会の4集落に、要望した備品が整備されました。



木之香集落自治会



小島集落自治会



上晴集落自治会



中伊仙西集落自治会



徳 之島用水パイプラインにみんなの夢を込めました。



11月23日(金)に開催された産業祭で耕地課、土地改良区、県農村整備課、土改連、国営徳之島用水農業水利事業所と共同で、土地改良事業のPRを行いました。

その中で、敷設予定のパイプラインに皆さんの願いを書いてもらい、後日敷設しました。今後とも耕地課では、豊かな農業の島を目指して、土地改良事業を進めてまいります。

第 36 回伊仙町産業祭 ～食の文化祭～



11月23日(金)、伊仙町町制施行50周年記念「第36回伊仙町産業祭～食の文化祭～」が徳之島交流ひろば「ほーらい館」で開催され、あいにくの雨模様でしたが町内外から多くの家族連れなどでにぎわいました。癒ていなホールで行われた式典では個人・団体への表彰や小学生の「食育体験発表」に続き、大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座の前田和久准教授が「まあざくと長寿ホルモン・アディポネクチン」、琉球大学熱帯生物圏研究センターの屋宏典教授(当町小島出身)が「徳之島での薬用植物栽培の可能性」を演題に講演。聴講した皆さん一同、真剣に聞き入っていました。続いて

の歌謡ショーでは沖縄県宮古島出身の歌手・砂川恵理歌さんが優しい語り口と歌声で会に花を添えました。ほーらい館前広場では各種展示・出店や同時開催された伊仙町漁業集落による「魚祭り・鮮魚直売」に多くの方々を訪れていました。キビ重量当て・三輪車レース・綱引き・赤ちゃんハイハイレースなどのイベントも盛況のうちに進み、最後を飾った「にわとり100羽つかみどり」には小さなお子さんからお年寄りまで多くの皆さんが参加し、あちこちで繰り広げられるにわとりをめぐる珍プレーに大いに沸きました。

モクモク農村交流ツアー in 徳之島で50名が来島



11月23日(金)～25日(日)の日程で、伊賀の里モクモク手づくりファームの会員さんご一行50名が「徳之島農村交流ツアー」へ参加して下さいました。バレイショ植え付けやコーヒー苗の植樹を始め、闘牛大会、長寿の島ウォーキング、サトウキビ絞り体験など、盛りだくさんのメニューを体験し、大盛況のうちに終了しました。

「徳之島は初めて来ました。人に温かく、生き生きとした方々にお会いできたこと、私にとっては宝物です。」「今政治に求められていることは、この徳之島とモクモクさんの活動から

学べるが多々あると思います。この素晴らしいコラボレーションにより、日本を元気にして下さい。」「生きること、食べること、死と向かい合うこと。自分の人生観が変わりました。」など、全国各地からご参加頂いた皆様から熱いメッセージを頂きました。また来年以降も継続して、徳之島のファンを広げていきたいと思っております。

長寿の島からダイエットアイランドへ

～本物の長寿を取り戻すために～ シンポジウム開催

日時：平成25年2月24日(日) 13:00受付 13:30開始

場所：徳之島交流ひろば「ほーらい館」癒ていなホール

主催：自治総合センター・伊仙町

共催：徳之島ダイエットアイランド協議会

後援：総務省

趣旨：長寿世界一を2人も輩出した徳之島において、長寿者が日々の生活の中で築き上げたライフスタイルや現状を見直し、ダイエットに取り組むプログラムをこの島から発信する。島民の真の長寿を取り戻すために、また健康意識の高い島外からのお客様へ満足のいくサービスを提供するために何が必要か、その方向性を探るシンポジウムを開催する。

医療費助成について

重度心身障害者医療費助成

重度の身体障害児（者）や知的障害児（者）の方が、医療保険各法及び老人保健法による医療を受けた場合に、その医療費の自己負担分を助成します。

◆対象者

- ・身体障害者手帳の等級が 1・2 級の者
- ・療育手帳の等級が A の者
- ・身体障害者手帳の等級が 3 級の者（療育手帳 B 1 所持者）



乳幼児医療費助成

6 歳未満の乳幼児が医療機関で受診した場合、その医療費の一部を助成します。

◆対象年齢

- ・医科・歯科診療とも就学前まで（6 歳に達する日以降の最初の 3 月 31 日まで）

◆給付内容

- ・1 ヶ月にかかった治療費が入院、通院を合わせて 3,000 円を超えた額を助成します。（ただし、この場合の 1 ヶ月とは 1 日～31 日換算とする。）なお、町民税非課税世帯の場合は全額を助成します。

ひとり親家庭医療費助成

母子・父子家庭等の方々の生活の安定と健康の保持増進を図るために、医療費の自己負担分を助成する制度です。

◆対象者

- ・伊仙町に住所を有し、配偶者のない母又は父及びこれに準ずる者で、18 歳未満の児童（ひとり親家庭等の父又は母及び児童、父母のない児童が対象）ただし、所得状況によっては受けられない場合があります。

◆助成額

- ・健康保険等の対象となった医療費の自己負担した額です。

※いずれも医療費助成金は、自動償還方式でレセプト確認後の口座振込みになります。

詳しくは、伊仙町役場 保健福祉課 86-3111（内63）まで

保健センターから予防接種のお知らせ

- 鹿児島県の今年の小児細菌性髄膜炎は、4例確認されています。
※この4例中3例が徳之島で発症しています。細菌性髄膜炎は、乳幼児がかかりやすく、子どもの命にかかるこわい病気です。ヒブと肺炎球菌の予防接種で細菌性髄膜炎を予防しましょう。伊仙町では、平成24年度ヒブワクチン・肺炎球菌ワクチン接種費用の全額補助事業を実施しています。対象は伊仙町に在住の生後2ヶ月齢児～4歳児(5歳の誕生日前日まで)です。
- 65歳以上の高齢者肺炎球菌の予防接種の助成を行っています。助成額は3,000円で、保健センターにて申請を受付けています。申請期間は、平成24年11月1日（木）から平成25年3月15日（金）までとなっています。申請の際には、印鑑が必要となります。



お問い合わせ先：伊仙町保健センター TEL 0997-86-2124

入札参加資格申請のお知らせ

『平成 25・26 年度建設工事入札参加資格申請』を下記のとおり受け付けます。

※町内業者においては、『平成 25 年度建設工事入札参加資格申請』等となります。

記

● 提出書類（建設工事について）

- 1 建設工事入札参加資格審査申請書
- 2 建設業許可通知書の写し
- 3 建設業許可申請書の写し
- 4 経営規模等評価・結果通知書の写し
- 5 直前 2 年の各事業年度における工事経歴書
- 6 町税等納税証明書及び各使用料納入証明書（町内業者のみ）
- 7 消費税及び地方消費税納税証明書の写し
- 8 労働保険料（労災保険）納入証明書の写し
- 9 退職金共済組合加入契約証明書の写し
- 10 雇用保険料納入証明書の写し
- 11 使用印鑑届
- 12 その他（ボランティア証明書の写し 等）



● 提出書類（物品について）

- 1 入札参加資格審査申請書
- 2 営業概要書
- 3 納税証明書
- 4 徴税等納税証明書及び各使用料納入証明書（町内業者のみ）

● 測量、建設コンサルタント、地質調査等については、国土交通省の統一様式で提出してください。

◎ 提出部数：各 1 部

◎ 受付期間：平成 25 年 1 月 7 日～平成 25 年 3 月 29 日迄

※ 注意事項

- 1 書類不備の場合は受け付けできません。早めに申請し、確認を受けてください。なお町内の新規業者を除き、上記受付期間を過ぎると受け付けできません。
- 2 提出書類は、提出書類の一覧表を最上段にし、上記の各様式番号順にインデックスを付けA4判のファイルに綴じ、表紙及び背表紙に入札参加資格審査申請書及び「会社名」を記入してください。また、複数の業種を申請する場合は、業種ごとに提出してください。
- 3 申請年度内に許可（建設業許可）の期限が切れる場合は、すみやかに新許可書を手に入れ提出してください。
- 4 町外業者については、2 年毎、町内業者については毎年の更新をお願いします。

【お問い合わせ先】 伊仙町役場 建設課 Tel：0997-86-3111

国民年金のお知らせ 新成人のみなさん おめでとうございます。

★20歳になったら国民年金★

国内に居住する20歳以上60歳未満のすべての人は国民年金に加入し、国民年金の保険料を納めることとなります。

★国民年金（基礎年金）3つのメリット★

- | | |
|------------------------------|--------|
| 1、老後を支えます | 高齢基礎年金 |
| 2、病気やけがで障害の状態になったときに支えます | 障害基礎年金 |
| 3、加入者が亡くなったとき、子のある配偶者、子を支えます | 遺族基礎年金 |

★世代と世代の支え合いの仲間入り★

公的年金制度は、現役世代が納める保険料で高齢者の方の年金を負担するという「世代と世代の支え合い」が基本です。

★「学生納付特例制度」と「若年者納付猶予制度」★

収入等がなく保険料の支払いが困難な場合は、「学生納付特例制度」（学生のみ）、「若年者納付猶予制度」（30歳未満）などの保険料納付猶予制度があります。

★「学生納付特例制度」

学生の方は一般的に所得が少ないため、ご本人の所得が一定額以下の場合、国民年金保険料の納付が猶予される制度です。

対象となる学生は、学校教育法に規定する大学（大学院）、短期大学、高等学校、高等専門学校、専修学校及び各種学校（修業年限1年以上である課程）、一部の海外大学の日本分校に在学する方です。

★「若年者納付猶予制度」

学生でない30歳未満の方で、本人及び配偶者の所得が一定以下の場合に、国民年金保険料の納付が猶予される制度です。

どちらの制度も、承認された期間は高齢基礎年金を受け取るために必要な期間に算入されますが、年金額には反映されません。しかし、収入を得られるようになり保険料の納付が可能となった時に「追加制度」をご利用いただければ、将来受け取る年金を増額することができます。

20歳になった時の国民年金の手続き等については、伊仙町役場町民生活課までお問い合わせください。
【お問い合わせ先】町民生活課年金係 0997-86-3111（内線52）

平成25年度保育所入所申込について

平成25年4月1日以降の認可保育所・へき地保育所の入所申込を下記のとおり受付いたします。申込書は、役場町民生活課にあります。なお、現在入所中の方については、保育所を通じて「入所申込書」を配布してあります。

○受付期間 平成25年1月7日（月）～平成25年1月31日（木）

○伊仙町内の認可保育所

・幸徳保育園	定員60名	0歳から保育時間は7時30分～18時
・いせん保育園	定員40名	0歳から保育時間は7時30分～18時
・わかば保育園	定員60名	0歳から保育時間は7時30分～18時

○伊仙町内のへき地保育所

・喜念へき地保育所	定員30名	1歳6ヶ月から保育時間は8時30分～17時15分
・古里へき地保育所	定員30名	1歳6ヶ月から保育時間は8時30分～17時15分
・面縄へき地保育所	定員30名	1歳6ヶ月から保育時間は8時30分～17時15分
・検福へき地保育所	定員30名	1歳6ヶ月から保育時間は8時30分～17時15分
・西伊仙へき地保育所	定員30名	1歳6ヶ月から保育時間は8時30分～17時15分

※保育所（園）へ入所できる児童は、両親いずれもが家庭内外問わず働いている場合、または次の事情にある場合です。（親のいない家庭・母親の出産等・病人の看護等・家庭の災害）

◎認可保育所は、所得状況等により保育料が変わります。

◎保育所入所（希望者多数）により、希望の保育所に入所出来ない場合があります。予めご了承下さい。

【お問い合わせ先】町民生活課 86-3111（内線55）

IP告知端末機の操作について

電話が繋がらない。インターネットが利用できなくなったなど、お困りの場合には、下記までご連絡ください。
お問い合わせ先 徳之島ビジョン
電話番号 (0997-86-4250)



ご存じですか？ 検察審査会

交通事故・詐欺・脅しなどの犯罪の被害に遭い、警察や検察庁に訴えたが、検察官がその事件を起訴してくれない。

このような不満をお持ちの方は、遠慮なく検察審査会事務局にご相談ください。相談や申立についての費用は無料で、秘密は堅く守られます。

検察審査会では、選挙権を有する国民の中から「くじ」で選ばれた11人の検察審査員が、検察官が事件を起訴しなかったことの「善し悪し」を審査します。お問い合わせは、以下のとおりです。

鹿児島検察審査会事務局 鹿児島市山下町13-47 鹿児島地方裁判所内

TEL 099-808-3719

名瀬検察審査会事務局 奄美市名瀬矢之脇町1番1号 鹿児島地方裁判所名瀬支部内

TEL 0997-52-5741

特集「伊仙町の伝統文化」

第四回 「石敢當 (いしがんとう)」

その②

石敢當とは (前回のあらい)

中国においては、古くから丁字路や四差路は百鬼の横行する場所と考えられ、魔除けなどとしての石敢當が設置されることが多かったそうです。また、石敢當といえは、沖縄のお土産として近年よく売られています。また、じつは日本全国に分布しており、秋田や徳島県などにも多く存在しています。このことをふまえて、本号では伊仙町社会教育課が調査している5地域の石敢當について紹介します。

喜念 (3 か所)

喜念地区の3か所の石敢當。
①は地面に埋まっている。②は植木鉢が乗っている。
③は民家の入り口にある。



面縄 (15 か所)

面縄地区15か所のうちの4つ。
④は物置の壁に書かれている。⑤は駒形の形をしている。⑥は細い路地を通るつきあたりにある。⑦は小学校のうらにある。横書きはめずらしい。
⑧面縄にある屋敷の石垣上にある。



伊仙 (32 か所)

伊仙地区に32か所にあるうちの3つ。
⑨のような字体はあまりみられない⑩はコンクリートによって作られ、字は手書き⑪は琉球石灰岩で作られた何も書かれていない石敢當。春にはユリの花が咲き、とても美しい。



犬田布 (10 か所)



東西犬田布で合計して10カ所あるうちの3つ。
 ⑬はコンクリートの塀に作られている。⑭は中国でよくみられる「泰山」に八卦の図がかかっているもの。
 ⑮は家の改築に伴って場所を移動したもの。

阿権 (1 か所)



⑫は阿権集落唯一の石敢當。石垣の壁に埋め込まれており、見分けがつきにくく探すことが難しい。

今回の調査によって喜念・面縄・伊仙・阿権・犬田布地域の中だけで61カ所の石敢當が存在することがわかりました。しかし、まだ見落としているものもあると思います。また、他の集落についても調査を行う予定ですので、ご協力の程よろしくお願いたします。

明眼の森が国指定天然記念物に指定へ

平成24年11月16日、国の文化財審議会が伊仙町犬田布にある「徳之島明眼の森」を国指定天然記念物に指定するよう文部科学大臣に答申しました。この森は琉球石灰岩地に成立するアマミアラカシを中心とした南西諸島の代表的森林で、沖縄県も含め残存するアマミアラカシ林は少なく、南西諸島の石灰岩地を代表する自然林として貴重な地域であることが認められました。



(写真1)

写真説明

写真1：犬田布明眼の森（西側から見た風景）

写真2：アマミアラカシ群



(写真2)

お問い合わせ先
 伊仙町歴史民俗資料館
 TEL：86-4183
 FAX：86-4184



實島 匠栄 (みしま しょうえい)
11カ月
泣いたり笑ったり、忙しい匠栄君☆
その笑顔に毎日癒されます。もうすぐ1歳。元気にすくすく育ってね！



富 一華 (とみ いちか)
9カ月
我が家に一つの華を咲かせてくれてありがとう。特技の巻き舌で、みんなを笑わせています。



南 祐慳 (みなみ ゆうせい)
1歳7カ月
いつも、元気いっぱい祐慳。これからも、たくましく子に育ってね。



元岡 凜 (もとおか りん)
2歳5カ月
9月には弟の真希也が産まれてお姉ちゃんになりました！歌をうたうのが大好きで周りを明るくしてくれます！これからもいっぱい食べていっぱい笑って大きくなってね

【お詫びと訂正】

9月に「第26回伊仙町ほーらい祭IN面縄港 終了御礼」として、寄付金ご芳名のチラシをお配りしました。ご芳名記載欄で南大島農業共済組合と記載がありましたが、正しくは、南大島農業共済組合職員一同でした。訂正してお詫びいたします。

人口の動き

(平成24年 11月30日現在)

総人口 = 7,125	出生 = 3
男 = 3,555	死亡 = 10
女 = 3,570	転入 = 20
世帯 = 3,582	転出 = 21

戸籍の窓

お誕生おめでとう

(敬略称)

出生児	保護者	集落名
真帆	雄一	河地
晴波	憲太郎	東伊仙西
利実菜	太志	中伊仙西
日々人と	勝樹	東目手久
かのあ	兼士郎	西伊仙東
恋華	等	東大田布
里莉	雅喜	喜念
美唯奈	圭史	西伊仙東
奏音	満	西伊仙東

ご結婚おめでとう	(敬略称)
鱒坂 浩規	阿三
庄司 麻由	大阪市
盛 優策	小島
政 里梨加	松原
徳山 晃太	西伊仙西
坂元 あすか	阿権
常 秀年	馬根
植村 未幸	龜徳
富岡 隆人	面縄
星 由味子	千葉
福山 代一	検福
直林 春美	瀬滝
作岡 俊和	喜念
勇 理恵	伊仙

香典返し

※ 社会福祉協議会受付

○西伊仙東	榊山 キク子さん (亡榊山 源二さん)	より金一封
○上面縄	米田 祐啓さん (亡米田 まつさん)	より金一封
○目手久	中 アイさん (亡伊藤 隆夫さん)	より金一封
○下検福	名古 善太郎さん (亡名古 メタさん)	より金一封
○東大田布	浜口 政良さん (亡浜口エイ子さん)	より金一封
○上検福	稲 喜代子さん (亡稲 政秋さん)	より金一封
○西阿三	鱒坂 茂子さん (亡鱒坂 充さん)	より金一封